

自分の思いを言葉にして相手に伝えるのは難しい場合がある。文章で思いを表すことは大切なことだ。

高校三年生の春、私の祖父に病気を患っていることが伝えられ、余命が宣告された。私はその話を母から聞いて、すぐに病院に駆けつけたと思った。しかし、それは許させなかつた。新型コロナウイルスの感染対策によって病室への入室が制限されている為である。このまま二度と会うことなく別れることになってしまふのではないかと思った。自分には何もできないことを実感し、とても悲しかった。それから何日か経って、私は部活動の県大会で上位入賞し、全国大会出場を果たした。それは新聞に取り上げられたが、納得のいく結果を得られず、新聞に掲載されることを喜ぶことができなかった。けれども、母は喜んでくれた。病室にお見舞いの物を届けてもらえるらしい。新聞はその後祖父のもとに届けられた。泣きながら喜んでくれたらしい。それを聞いて私はたまらなく嬉しかった。文章や写真を通じて祖父に元気を与えることができ、部活動を頑張って良かったと強く感じた。それから数か月後、祖父の体調は良くなり、退院を許された。祖父が入院してから初めて会うと、かなり元気な様子で安心した。しかしそれも一時的なもので、いずれまた入院が強いられ、再び会うことができなくなるだろう。これで一生の別れになるかもしれない。ただその日は楽しく話しながらご飯を食べただけだった。改まって感謝の気持ちを伝えては、本当に最後の面会になってしまいかもしれないことを祖父に悟られる可能性があったからだ。けれど、これは単なる言い訳かもしれない。感謝を伝えるのが照れくさいから言葉で上手く伝えられないという点もある。

自分の思いや考えを相手に伝えたい時、文章に書くことと素直に表すことができる。一人ひとりにしか書くことができない文字には性格や感情が表れる。面と向かつては伝えられない思いを書き表すことができる。また、病室へ入ることができない今の状況でも、手紙なら届けることができる。これらのことに気づくことができ、文章で思いを伝えることの大切さについて学んだ。素直に話すことができない思いを文にして、祖父に届けることを決心した。

文とは、人と人をつなぐ架け橋になると私は思う。言葉で伝えられないような本当の思いを伝える為に、文は大切な手段であると考え。また、直接言葉で伝えられない状況に置かれていなくても、文章を通じて情報を届けることができ、それによって人の心を動かすことができる。今、コミュニケーションツールは携帯電話が主流となっている。手紙を書いたこととは無かった。新聞で現状を報告しようと思ったことなど無かった。しかし、私はこの経験を通じて、文章で伝えることの素晴らしさを知った。文章で思いを表すことは大切なことだ。